



外国出張報告書

平成 27年 8月 4日

1. 出張国名 モザンビーク
2. 出張月 平成 27年 5月
3. 出張目的 モザンビーク・ナカラ回廊での農家圃場試験における収量調査および現地カウンターパートへの指導業務：A

4. 成果の概要

今作期の農家参加型の圃場試験について、カウンターパート機関である IIAM と協同で、ニアサ州リシंगा近郊の Lumbi 集落およびザンベジア州グルエ近郊の Murrimo 集落での収量調査を実施して、作付体系（間作と単作）、施肥法、および播種時期の違いがダイズとトウモロコシの生産性に及ぼす影響に関するデータを集積した。いずれの試験地においても農家からの意欲的な試験協力が得られ、これまで対象地域の作物生産では限られていた農家圃場における技術効果に関する有益なデータ蓄積が期待された。一方で、一部の農家に収穫調査の手順が十分に周知されておらず、データの欠損がみられた。また、昨年と同様に、トウモロコシはダイズに比べて生産性が不安定な傾向があり、収穫皆無の圃場がみとめられた。各圃場・処理区において得られた収穫サンプルは乾燥後、その乾物重を測定するとともに、一部について、植物の部位別窒素吸収量の解析に供試するため、JIRCAS に持ち帰った。合わせて、これらの試験地点で、観測されていた日別の気象観測データおよび土壌水分データを回収し、試験期間中の気象および圃場の水分環境を整理した。